



2022.6.6

## Salone del Mobile.Milano 2022

### 第 60 回ミラノサローネ国際家具見本市

#### 未来を見据え再スタートを切る

60年という歳月は、品質、革新性、そして環境と社会への責任を追求することに費やされました。ミラノサローネは節目を迎えましたが、立ち止まっていません。新たな挑戦は、より倫理的で意識的な家具システムのビジョンを具体化すること、そしてウェルネス、暮らし、包括のための条件と空間を生み出すことができるデザインを実現することにあります。

ミラノサローネ国際家具見本市（以下、ミラノサローネ）は、ついに、そして再び、スタートラインに立ちました。第 60 回を迎える今年は、定点観測と（再）発見を求める社会のために、美を構築します。ミラノサローネは、デザインの創造力と家具システム全体の社会的・政治的役割について共に考えるための時間、場所、ツールでなければならないことを意識し、ミーティング、議論、対話の重要性を再確認しながら、完全復活します。ミラノ、イタリアに根ざし、世界に展開され、品質、人間関係、ビジネスチャンス、創造的な道を生み出し、私たちの生活（そして暮らし）にポジティブな影響を与える好循環システムの要として、グローバルイベントであることを（再び）主張しています。60年間、優れた製品を世に送り出してきただけでなく、人間と自然を中心に据えた、必要かつ責任あるデザインを世に送り出してきました。このエディションは、基本的な考え方や仕事の進め方を中心に築き上げられたものです。

「周年記念というと、特別なイベントを開催したりしますが今日はその必要はありません。パンデミックと国際的なシナリオによって、この第 60 回の意味を真剣に考えなければならなくなった。私たちは皆、さまざまな働き方、旅、生き方を試みています。また、自分たちの生活を再構築するという課題にも取り組んでおり、そのために自分たちを改革する必要に迫られています。私たちの生活空間がどのように適応されるべきか、すでにある分野では懸命に対応策を考えています。今回のサローネは、それらを共有する機会でもあります。そのため、私たちは、出展者、企業、建築家、サローネサテリテの若手デザイナー、テーマ別講演のスピーカーなど、すべてのアクターが集会的なプロジェクトで自己表現できるようなイベントを開催するために、展示力と国際性に重きを置いています。出展社の 27%が国外からであり、ヨーロッパ、イギリス、カナダ、そしてサウジアラビア、インド、東南アジア、極東から数千人の来場者を見込んでいます。直接会場に足を運ぶことができない方でも、賢明な努力によって構築されている新しいデジタルプラットフォームを通して日々、参加できます。マリオ・クチネッラのインスタレーション『Design with Nature（デザイン・ウィズ・ネイチャー）』に代表されるように、私たちはミラノサローネが垣根を取り払い、文化の架け橋となり、環境に優しい好循環の促進剤となることを信じています。私たちは、これまでテーブルを囲み、同じ立場で仕事ができることを当然のことと考えていました。今回、再びこのような場を設けることができたことで、このことがいか



に重要で特別なことであったかを再認識することができました」と、ミラノサローネ代表マリア・ポッロは述べています。

2022年は、1500社以上の出展社と、35歳以下の若手デザイナー約600人が、自らのアイデンティティを最大限に表現し、建築的かつコミュニケーション要素として機能するスタンドによって完全に自由な創造性を発揮し、各ブランドの新しいコレクションとライフスタイルのコンセプトの素晴らしさを示すために来場者を迎え入れます。ミラノサローネを国際的な見本市の中でも際立たせているのは、来場者の没入感と感動を呼び起こすような体験です。

### ●サローネ国際家具見本市、国際インテリア小物見本市、Workplace3.0

流動的な家具からクラシック回帰、純粹さと軽さの追求から自然や逆に建築的なインスピレーション、そして知識と職人技術の回復への考察まで、さまざまなデザインと美学の道筋を提供します。もちろん、素材や環境に配慮したグリーンなアプローチへの取り組みも、あらゆる分野で見受けられます。モノが持つ物語性、雰囲気を作り出し、感情を呼び起こし、空間をそこに住む人々と共鳴させる力が明らかに回復しています。

### ●隔年開催：エウロクチャーナ/国際キッチン見本市、その併催展示 FTK（テクノロジー・フォー・ザ・キッチン）、国際バスルーム見本市

キッチンは、オープンな空間であり、人々が集い、共有する場であると考えられています。人、関係、時間、そして私たちの生活のペース（できればゆっくりと）の重要性を認識する場所なのです。そのため、デザインには、ダイナミックな空間、流動的でハイブリッドな空間、つまり現代の生活を多機能に表現することが求められているのです。バスルームメーカーは研究とイノベーションを活用し、節水や、高品質で耐久性のある製品も保証する低インパクトでリサイクル可能な循環型素材の使用に焦点を当てたプロジェクトを打ち出しています。テクノロジーの活用はますます広がり、目に見えない形で、ユーザーにカスタマイズ性の高いリラックスしたウェルネス体験を提供しながら、高いレベルのサステナビリティを実現する製品を可能にしています。

### ●S.Project

デザインプロダクトとインテリア装飾のソリューションに特化した展示会で、空間のハイブリッド化、個々のデザインから環境全体のデザインへの移行という、現代の最も重要な研究テーマに焦点を当てます。デザイン的な刺激だけでなく、トータルコーディネートされ、人を迎え入れ、安らげる「巣空間」を構築することが、基本的な存在意義となっています。

▶イタリア家具工業連盟のクラウディオ・フェルトリン会長

「第 60 回ミラノサローネに多くの出展社を迎えられるのは、残念ながらまだ終わっていない過去 2 年間の困難と不確実性の後に、この業界が示した最高の反応と言えます。木工家具のサプライチェーンにとって、2021 年は生産高が 490 億ユーロを超え、2019 年比で 14%増、輸出で 7.3%増、イタリア市場で 18.4%増と予想を上回る 1 年となりました。これらの数字は、企画、デザイン、素材研究、耐久性、持続可能性といった製品の品質と、政府の建築奨励策によってイタリア市場で推進されている、国内空間への新たな関心の高さを物語っています。明らかに、地政学的な状況、インフレ、そして下半期における原材料費の目まぐるしい上昇が、2021 年に達成した業績にブレーキをかけました。このような不安定で心配な状況にもかかわらず、いや、だからこそ、企業家たちは 2 年の空白を経て、作品を直接披露し、これまで開拓されていなかった新しい市場へと身を投じるために、ミラノサローネへの出展は不可欠だったのです。サステナビリティ（持続可能性）というテーマで、素晴らしいアニバーサリーとなることでしょう。イタリア家具工業連盟では、2021 年末に発表した『サステナビリティ行動規範』を実行に移すため、6 月 27 日の取締役会で関連行動計画の発表とともに議論する予定ですが、この行動規範に企業が賛同し、エコロジー移行への道を一緒に進むように働きかけることが我々の務めです」

### ●第 23 回サローネサテリテ

参加デザイナーは 600 人以上。今年のテーマは「**DESIGNING FOR OUR FUTURE SELVES. SUSTAINABILITY**（デザインング・フォー・アワ・フューチャー・セルヴズ。サステナビリティ）」です。今回は、すべての人のための自律性、快適性、動き、使いやすさ、相互作用、安全性を促進する「インクルーシブ」デザインについて考えるよう、私たちに呼びかけています。このテーマは、アートワークやホールのセットアップにも反映されており、感覚的な探求を約束し、サローネサテリテを「ウェルカムなデザイン都市」のように変貌させます。例えば、サローネサテリテ・アワード（ホール 1）は、本イベントの創設者であり、多くの若きクリエイターの「ゴッドマザー」であるマルヴァ・グリフィン・ウィルシャーが 8 日の受賞作品発表のために用意された空間です。また、世界中の厳選された研究センターから、**サステナブルな新素材を集めた展示**も予定。このプロジェクトは、「**デザイン・ウィズ・ネイチャー**」マテリアルライブラリーと呼応しており、若者向けのホールでは、このテーマに対するサローネのコミットメントをより強く印象付けるものとなっています。今年は新たに、参加者の声をまとめたポッドキャストを配信し、視覚障害者のための代替ガイドとして、バリアフリーなデザインについて総合的に考察することを提案します。

### ●「デザイン・ウィズ・ネイチャー」

サステナビリティのために、デザインはどこまで進んでいるのか？

私たちの暮らし（都市や家庭）に新しい時代の到来を加速させられるのか？

デザインはどのようなツールや具体的な最新の素材を手に行けるのか？

建築家マリオ・クチネッラがキュレーションし、S.Project のホール 15 で開催される展示は、これらの問いかけに答えることを目的としています。1,400 m<sup>2</sup>の展示は、未来の生活様式を



表す**好循環のエコシステム**を表現しています。サローネは、環境問題への取り組み、新しい環境教育、そして変革が可能であることを認識し、地球に住む方法の変革、そして未来の空間の予言者としての建築家やデザイナーの役割、領土、都市、風景の間の難しい均衡の再構築をテーマにマリオ・クチネラへ協力を求めました。そのため、「デザイン・ウィズ・ネイチャー」では、循環型経済と再利用をテーマに、都市は未来の「鉱山」となりうるという考えから、建築に使われる原材料のほとんどを調達することが可能であるとしています。

### ●ADI 併催イベント：Design in the Kitchen・Design in the Bathroom

ミラノサローネは、60周年の節目に、見本市の心臓部である**出展社に敬意を表し**、品質の名の下に毎年革新的な製品とプロセスの発表に揺るぎないコミットメントを称えることを目的としています。**建築家アレッサンドロ・コロomboとパオラ・ガルブリーオが、ADI（イタリア工業デザイン協会）の協力のもと**、エウロクチャー、FTK - テクノロジー・フォー・ザ・キッチン、国際バスルーム見本市のホールでキュレーションした2つのインスタレーションが開催されています。「**Design in the Kitchen**（デザイン・イン・ザ・キッチン）」はキッチン関連、「**Design in the Bathroom**（デザイン・イン・ザ・バスルーム）」はバスルームの家具をフィーチャーしています。荣誉あるコンパッソ・ドーロ賞や、受賞した**250作品**から多くが展示され、残りは写真形式で展示されます。そのほとんどは、見本市のスタンドを通過し、発見、技術、デザイン、ビジネス文化、習慣、社会性に基づいたイタリアデザインの比類ない物語の一章を物語っています。

### ●「TALK」プログラム

デザイン、テクノロジー、アート、教育、コミュニケーションは、社会的、文化的、生産的、経済的な相乗効果を生み出し、環境問題を克服し、前向きで真のエコロジー移行を開始するために協働することができるのです。また、未来には、できるだけ多くのニュアンスを把握できるように、異なる、補完的な、あるいは相反するビジョンが必要です。性別、年齢、国籍、文化、経済、能力などの多様性というレンズを通してのみ、真に包括的な計画を達成することができるのです。ミラノサローネとサローネサテリテは、このような共通認識のもと、「TALK」プログラムを開催します。登壇者は、**マリオ・クチネッラ、パオラ・アントネッリ、アリス・ロースゾーン、イヴ・ベアール、ダーン・ルースガルド、ヴィクトリア・シダル、エヴァ・フェルドkamp、リアム・ヤング、アナブ・ジャイン、マージャン・ヴァン・オーベル、マッコックス**などです。サローネ・デル・モービレの「TALK」のキュレーターは**マリア・クリスティーナ・ディデーロ、ベアトリチェ・レアンツァ、キアラ・アレッシ**。サローネサテリテ「TALK」のキュレーターは**マルヴァ・グリフィン・ウィルシャー**が務めています。**インターザ・サンパオロ銀行とアルタガンマ財団**も、マクロ経済シナリオ、課題、将来への新たな展望に関する対話のためサローネを支援します。

### ●イデンティタ・ゴローゼ・ミラノ



またミラノサローネは、**ガストロノミーの国際的なハブであるイデンティタ・ゴローゼ・ミラノ**と、今回も食とデザインを結びつけるためにコラボレーションします。その使命と意図を共有する**美食のプロジェクト**は、4つのパビリオンにそれぞれ1つずつフードコートを設置します。シェフの**ジャンニ・タラビーニ**、**フェデリーコ・マリンヴェルノ**、**ヴィット折尾・レアーニ**、**ドミンゴ・シンガロ**による**環境保護**と特徴的な料理が、「**デザイン・ウィズ・ネイチャー**」プロジェクトのフードコートの特徴づける共通項であり、彼らは日々、前向きな変化の必要性について大きな意識を抱いています。このプロジェクトは、サステナブルな生産者やサプライヤーと協力し、廃棄物をなくし、プラスチックやその他の非リサイクル材料をサプライチェーンから排除することで実現されています。生産者、農家、漁師と直接協力し、自然の牧草地を利用し、植物を育て、動物を飼育し、土を使わないキッチンガーデンや二次輪作などの再生可能な方法を用いています。他の3つのフードコートは、ホール2、8、14にあり、**カルロ・クラッコ**、**マルコ・ペドロ**、**クリスティーナ・ボワマン**、**アンドレア・リバルドーネ**、**エドアルド・トラヴェルソ**、**ジョバンニ・リチャルデラ**、**ビビアナ・ヴァレーゼ**、**エウジェニオ・ボア**、**フェデリコ・スゴルビーニ**といったイタリア最高峰のシェフと職人が作る美食を堪能することができます。

## ●マジックボックス

第60回ミラノサローネは、6月7日から17日まで、**王宮カリアティディの間**にて、**ダヴィデ・ランベッロ**の指揮のもと、**ランベッロ&パートナーズ・クリエイティブ・スタジオ**がキュレーションし、見本市のDNAに常に刻み込まれている**11のマニフェストの言葉**に捧げるサイトスペシフィックフィルム・インスタレーションを上演します。**11人の偉大なるイタリア人映画監督**たちが、それぞれのスタイルでキーワードを解釈し、作家的なショートフィルムに仕上げた作品を上映します。**フランチェスカ・アルキブージ**は「感動」という言葉に挑戦し、**パッピ・コルシカート**は「企業」、**ウィルマ・ラバーテ**は「プロジェクト（デザイン）」、**ブルーノ・ボツェット**は「ネットワークング」、**ルカ・ルチーニ**は「コミュニケーション」、**クラウドイオ・ジョバンネージ**は「文化」、**ジャンニ・カノーバ**とIULM映画大学の学生たちは「若者たち」、**ドナート・カリージ**は「インジェヌイティ（創意工夫）」、**ダニエレ・チプリ**は「ミラノ」、**ステファノ・モルディーニ**は「サヴォアフェール（匠の技）」、最後に**ダビデ・ランベッロ**は「品質」と、それぞれの作品を発表しています。

## ●スカラ座公演

交流とアイデア、文化、創造性の循環に対してこれまで以上にオープンな精神で、**スカラ座財団**とのコラボレーションを復活します。これは、私たちが**共有する価値観**を織り交ぜながら、フィルハーモニー管弦楽団の才能を促進し、価値を高めること、そして**デザイン界の人々にユニークな体験を楽しんでもらうこと**、この2つの目的から生まれたパートナーシップなのです。サローネのデジタルプラットフォームでライブ配信される舞台は、**ロレンツォ・ヴィオットティ**指揮によるフィルハーモニー管弦楽団のコンサートで幕を開け、**モーツァ**

ルトの交響曲第 38 番ニ長調 K.504「プラハ」に続いて、ジョージ・バランシン振付、イゴール・ストラヴィンスキーの音楽、ロベルト・ボッレ主演の「アポロ」が上演されました。

#### ▶ミラノ市長ジュゼッペ・サラ

「60 回目を迎えるミラノサローネは、新たなダイナミズムとエクレクティズム（折衷主義）をもって、ミラノの街に開かれた存在となります。サローネは、世界におけるミラノを象徴するイベントです。私たちの街のように、自らの価値とアイデンティティを見失うことなく、未踏の道を見つけ、地域と国にとっての戦略的分野の新鮮さを伝える手法を知っているイベントです。回を重ねるごとに、ミラノとの絆は強くなっています。このように、デザイン、家具、インテリアの分野、そしてサローネ期間中に開催される魅力的なイベントの運営・組織において、この街はますます安全で信頼できる案内役となっていることが証明されています。出展者、企業、若手デザイナーが、製品の革新性と持続可能性に注目し、トレンドを先取りする国際的な人々に提案するコレクションのおかげで、今年もそれが実現するのです」

#### ●第 60 回ミラノサローネのコミュニケーションキャンペーン

イタリアを代表するイラストレーター、エミリアーノ・ポンツィは、この数カ月間、見本市の歴史を 10 年ごとに 1 枚ずつ、その伝統を祝うと共にミラノ市とデザインの進化、ライフスタイルとのつながりを示す、彼の 6 枚のポスターを制作しました。ミラノの空気や感情を現代的な視点で再提案し、毎回、驚きとサスペンスの瞬間を与えてくれるイメージの数々です。ポンツィの作品は、ミラノ市とサローネとの関係における最も代表的な要素を特定し、その関係に内在する背景を明確に表現し、横断的なアプローチとビジョンを維持した総合的に素晴らしい作品となりました。1961 年から今日に至るまでのミラノとの関係、人々との関係、習慣の変遷を物語った後、最新のマニフェストは未来を見据えます。サローネは、イメージの主人公のように、この先のことを考え、たゆまず明日を楽観視しているようです。こうして完成したイラストからは、勢い、喜び、自信、色彩が感じられます。これは「最終章」ではなく、鋭い洞察であり、サローネ、ミラノ、そして世界中で私たちを待ち受けている「何か新しいもの」を発見するための新しい第一歩を示しています。

#### ●ウェルカムプロジェクト

ミラノサローネとミラノ市が持つ国際的な役割と、その使命である包容力とホスピタリティを強調するプロジェクトは 7 年目を迎えました。これは、ミラノ市、フィエラ財団、ミラノの主要デザイン学校（Nuova Accademia, IED Istituto Europeo di Design, Scuola del Design/Politecnico di Milano）とのコラボレーションによって実現したものです。サローネは、市内の中心地にウェルカムステーションを設置し、100 人ほどの学生が、市内の移動に関する情報、見本市そのものに関する情報、ミラノで開催される主なイベントに関する情報を提供します。



▶**ロンバルディア州知事アッティリオ・フォンタナ**

「ミラノとロンバルディア州にとって、ミラノサローネは最も待ち望まれた見本市であることに疑いの余地はないでしょう。今年は、海外からの出展社、来場者、若手デザイナーの参加により、より充実した内容で『通常開催』に戻りました。ミラノサローネは、単なるイベントではないのです。ロンバルディアのあらゆるノウハウが集約され、企業や団体のシステムが評価され、ブリアンツァの小さな職人から世界的に有名な大学まで、この土地の創意工夫と伝統の象徴となる、この地域の卓越性を高める独自の触媒なのです。木工家具部門は、過去2年間と比較して、成長の瞬間が訪れています。回復の兆しは、この地域の企業や専門家が持つ優れたスキルに起因しています」

●**イタリア大使館貿易促進部 (ICE)**

ミラノサローネでは、イタリア家具工業連盟が、海外企業の経済・商業的發展を支援し、イタリアへの外国投資の誘致を促進する政府機関、**イタリア大使館貿易促進部 (ICE)** と積極的に協力し、毎年サローネへ、海外事業者、特にバイヤー、建築家、インテリアデザイナー、ジャーナリストの関心と参加を促す戦略活動を行なっています。今年もまた、**ICE** はミラノサローネに重要かつ貴重なサポートを提供し、最も多くの有能な海外オペレーターをミラノに招き、ビジネスと地域の利益のためにシステムとして機能する国の能力を証明しています。

**イタリア大使館貿易促進部 (ICE) 会長 カルロ・フェットロ**

「このようなメイド・イン・イタリアーの一大イベントに対して、その継続のためにイタリア大使館貿易促進部 (ICE) がパンデミック時にも貢献をしてきた前回に続き、今年のミラノサローネ高い商品価値と海外からのオペレーターの流れが重要になりそうです。ICEからは、70カ国から600人のバイヤーを招待し貢献します。ミラノが人で溢れかえるイベントの準備がされているのは大変喜ばしいことです」

●**インテサ・サンパオロ銀行パートナーシップ**

2017年に始まった**インテサ・サンパオロ銀行**と**ミラノサローネ**の制度的パートナーシップは、同行がメイド・イン・イタリアーの宝庫であるデザインや家具などのセクターにコミットしてきた長年の提携を今年も継続されます。イタリアの大手銀行である**インテサ・サンパオロ**は、このようにイタリアの家具、調度品、デザイン分野への支援を一新し、環境負荷の低減や海外での活動展開に取り組む企業を支援することを目的としています。

●**ラジオとのコラボレーション**

Supersalone(スーパーサローネ)での好評を受け、今回も、**Radio DeeJay** (ラジオ・ディー・ジエイ)、**Radio Capital**(ラジオ・キャピタル)、**m2o** とのコラボレーションが決定しました。6月7日から12日まで、ラジオトラックはロー、フィエラミラノ内のコルソ・イタリアに移動し、そこから番組を生放送します。音楽、エンターテインメント、情報が、ブランド、デザ



Salone del Mobile. Milano

Press

イナー、建築家、来場者の多くの声と交互に流れ、DJ やプレゼンターが毎日関わって、サロ  
ーネの様子をライブで配信します。

プレスお問い合わせ先: 山本幸 [yuki@milanosalone.com](mailto:yuki@milanosalone.com)

International press info: Marva Griffin-Patrizia Malfatti [press@salonemilano.it](mailto:press@salonemilano.it)